

困り事に誰が対応すべきか？

1	本人に見込まれた人が受け、それをまわりで支援する ただ、見込まれた人が対応しきれないで困った場合は、他の人に回す
2	困り事を抱えた人とたまたま接点のある人が対応する 餓死事件の場合、大抵は数名の人が、その人の危機的な状況を察知していた
3	同じ困り事を抱えた人たちが共同で「人材」を確保する まず誰かが人材を発掘したら、その情報を仲間にも知らせる
4	その困り事を解決する力を持った人材をご近所内で発掘 食事の問題なら、コック、シェフ、料理自慢、栄養士、食生活改善推進員、料理店など
5	困り事に対応するグループ（有償サービスを含めて）をつくる 無償か有償か、グループにするか事業体にするか、相性の合う者同士の個別対応にするか
6	足元の世話焼きさんが対応する 小さな困り事の場合、その人が周りの人を活用できるか
7	サービスを利用する 簡単にこの方法を取ると、サービス依存になる。できる限り住民で対応を
8	企業が顧客サービスの一環として対応する どの業種が対応するのがふさわしいか、そういうサービスをしている企業か